

2009 年度 小委員会活動成果報告

(2010 年 2 月 24 日作成)

| | | | |
|------------------------------|---|-------------------------------|-------------------------------|
| 小委員会名 | 住宅地計画小委員会 | | 主 査 名：横山俊祐 就任年月：2008 年 4 月 |
| 所属本委員会 (所属運営委員会) | 建築計画委員会 (住宅計画運営委員会) | | 委員長名：布野修司 主 査 名：高田光雄 |
| 設 置 期 間 | 2008 年 4 月 ～ 2010 年 3 月 | | |
| 設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き) | <ul style="list-style-type: none"> ・地域力を高め、居心地の良い住宅地を甦生するため、空間・社会・文化・制度等の多面的視点で既存住宅地の再生・更新手法を検討 ・住まいまちづくりを包括的・相互的に捉え、住宅地の持続的進化や活性化に向けての計画パラダイムの構築、及び実践手法の提起 ・2009 年度：見学・事例研究会、公開シンポジウム | | |
| 委員構成 (委員名 (所属)) | 委員公募の有無：有 | | |
| | 横山俊祐 (大阪市立大学)・徳尾野徹 (大阪市立大学)・森永良丙 (千葉大学) 小浦久子 (大阪大学)・江川直樹 (関西大学)・菊地成朋 (九州大学) 寺川政司 (CASE)・山本理 (長谷工総合研究所)・野澤康 (工学院大学) 田中友章 (明治大学・フォルムス)・阿部順子 (椙山女学園大学)・伊丹康二 (大阪大学) 森傑 (北海道大学)・田上健一 (九州大学)・三谷幸司 (四天王寺大学) | | |
| 設置 WG (WG 名：目的) | 住宅地のリノベーションデザイン WG：既存住宅地の抱える様々な課題に関する具体的事例を地域特性別に収集、整理。事例研究会のための情報収集と資料作成。 | | |
| 2009 年度予算 | 190, 000 円 | ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス： | |

| 項 目 | 自己評価 |
|-------------------------------|--|
| 委員会開催数 | 4 回 |
| 刊行物 (シンポジウム資料等は除く) | |
| 講習会 | |
| 催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等) | 1. 浦安のまちと計画的住宅地の変遷見学・事例研究会 参加者数 15 名 (資料名) 浦安レポート/住宅地計画小委員会 2. (名称) 軍艦島と長崎斜面地住宅見学・事例研究会 参加者数 18 名 (資料名) 長崎レポート/住宅地計画小委員会 3. (名称) 計画的住宅地 (ニュータウン・長屋群) の変容見学・事例研究会 (資料名) 大阪 2/住宅地計画小委員会 参加者数 14 名 |
| 大会研究集会 | 1. (名称) 研究懇談会「住宅地マネジメントの課題と展望- 成熟社会のプログラム」(建築社会システム委員会住宅ストック小委員会と共催) 参加者数約 60 名 (資料名)「住宅地マネジメントの課題と展望- 成熟社会のプログラム」 |
| 対外的意見表明・パブリックコメント等 | 1. なし |

| | |
|---|---|
| <p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> | <p>1. 当初の計画に沿って、テーマを設定して、各地の住宅地（既成市街地・密集住宅地・計画的住宅地・歴史的計画住宅地）の事例見学会と評価のための研究会を行い、即地的に既成住宅地の実態把握と今日的な課題や可能性を検討し、経年的な変化を確認してきた。住宅計画から地域計画まで幅広い専門家が結集し、多面的な評価・議論を通じて、様々な課題を抱える住宅地のタイプ毎の甦生計画のスタンスや手法の議論を深めることができ、委員会運営は極めて活発であった。</p> <p>2. 事例見学に際して住まい・まちづくりに関わる専門家や市街地整備・地域改善計画の設計者・企画者・研究者・居住者などから具体的な情報が提供され、住宅地の甦生計画手法に関する実践的な意見交換と検討を行った。</p> <p>3. 住宅地のマネジメントに関する研究懇談会を開催（2009年8月）し、住宅地計画・維持の新たな枠組みや理念、手法に関する議論を公開し、当初計画を越える充実した資料集を作成した。</p> |
| <p>委員会活動の問題点・課題</p> | <p>1. 旅費：委員は関東から九州まで広域であり、また、関西圏も約半数を占める。1回の研究会で、予算の全額を使い切ることになる。旅費に応じて各小委員会の予算を傾斜配分することを検討していただきたい。</p> |

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。